

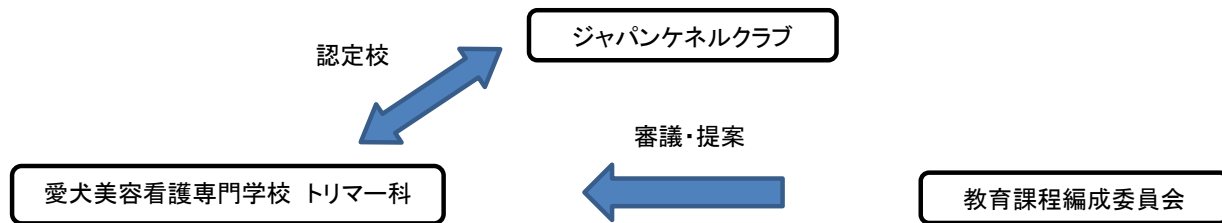
職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地		
愛犬美容看護専門学校		平成22年7月2日		濱本大気		〒 064-0809 (住所) 札幌市中央区南9条西7丁目1-31 (電話) 011-512-7744		
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地		
学校法人工藤学園		平成22年7月2日		理事長 中川佳代子		〒 064-0809 (住所) 札幌市中央区南9条西7丁目1-31 (電話) 011-512-7744		
分野	認定課程名	認定学科名		専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度		
商業実務	商業実務専門課程	トリマー科		平成23(2011)年度	-	平成26(2014)年度		
学科の目的	動物愛護の精神にあふれ、高度な技術と幅広い知識を身につけた質の高い人材を育成する。また、ペットショップの業務にそった学習を行い、トリミング実習に重点をおき、JKCトリマーB級取得を目指す。							
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)	JKCトリマーライセンス・JKCハンドラーライセンス・ICCキャットグルーマーライセンス・愛玩動物飼養管理士・損害保険募集人一般試験 ペットフード販売士・動物診療助手、ペットBLS検定を目指す。							
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数		講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入	1,844 単位時間	310 単位時間	114 単位時間	0 単位時間	0 単位時間	1,420 単位時間
			単位	単位	単位	単位	単位	単位
生徒総定員	生徒実員(A)	留學生数(生徒実員の内数)(B)		留學生割合(B/A)	中退率			
55人	51人	0人		0%	0%			
就職等の状況	■卒業者数(C)		15人					
	■就職希望者数(D)		2人					
	■就職者数(E)		2人					
	■地元就職者数(F)		2人					
	■就職率(E/D)		100%					
	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)		100%					
	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)		13%					
	■進学者数		11人					
	■その他							
	・トリマー専攻科・トリマー高等専攻科への進学者:11名							
(令和5年度卒業者に関する令和6年5月1日時点の情報)								
■主な就職先、業界等 (令和5年度卒業生) 動物業界(ペットショップ)								
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: ※有の場合、例えば以下について任意記載			無				
	評価団体:	受審年月:		評価結果を掲載したホームページURL				
当該学科のホームページURL	https://www.aiken-s.ac.jp/							
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(A:単位時間による算定)							
	総授業時数		1,844 単位時間					
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数		136 単位時間						
うち企業等と連携した演習の授業時数		0 単位時間						
うち必修授業時数		136 単位時間						
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数		136 単位時間						
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数		0 単位時間						
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)		136 単位時間						
	(B:単位数による算定)							
	総単位数		0 単位					
うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数		0 単位						
うち企業等と連携した演習の単位数		0 単位						
うち必修単位数		0 単位						
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数		0 単位						
うち企業等と連携した必修の演習の単位数		0 単位						
(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)		0 単位						
教員の属性(専任教員について記入)	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを合算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)		0人					
	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)		0人					
	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)		0人					
	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)		0人					
	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)		3人					
	計		3人					
上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数		1人						

1. 「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針
動物に関わる職業を意識して、創造力を養う教育プログラムを実施し、生徒一人ひとりの能力を活かした教育編成をする。また、地元ペットショップ等と連携し、業界関係者の意見を反映しながら、カリキュラム・シラバス・授業内容の改善・実習のブラッシュアップに努める。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け
※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記
学校長は、教育課程の編成にあたり、第三者の意見を求める教育課程編成委員会を設置し、規則の通り、カリキュラムの企画・運営・評価、また授業科目の内容・方法を審議し、充実・改善を図る。また、(一社)ジャパンケネルクラブ指定のカリキュラムに基づき編成を行い、実際のカリキュラムの改善は、担当教員が行う。



(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和6年11月1日現在

名前	所属	任期	種別
中川佳代子	学校法人工藤学園	令和6年11月1日～令和8年10月31日(2年)	—
樋原均	(株)ペットハウス テン・テン	令和6年11月1日～令和8年10月31日(2年)	③
歌川光	(株)すぎたま	令和6年11月1日～令和8年10月31日(2年)	③
立花徹	北海道小動物獣医師会	令和6年11月1日～令和8年10月31日(2年)	①
原田圭	札幌市小動物獣医師会	令和6年11月1日～令和8年10月31日(2年)	②
濱本大気	愛犬美容看護専門学校	令和6年11月1日～令和8年10月31日(2年)	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回(2月)

(開催日時(実績))

第1回 令和6年2月19日 13:00～14:00 第2回 令和6年2月20日 13:00～14:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

トリミング実習についての意見交換・協議を行った。仕事に必要なカット方法やお客への対応の仕方、職業人としての知識を深めるため卒業生による講義など授業で取り入れてほしいものが提案された。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

校外実習において職場体験、実習教育を行う。実習内容としてはペットショップ等において1年次後期、2年次前期にインターシップを実施する。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

1年次後期・2年次前期に、提携しているペットショップ等に一定期間の現場研修を依頼し、実習終了後、トリミング実習授業ではトリミングのスキルを、コミュニケーション学ではお客様対応などさらに実践的な授業に結びつける。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	企業連携の方法	科目概要	連携企業等
コミュニケーション学	3.【校外】企業内実習(4に該当するものを除く。)	実際のペットショップや動物病院での飼い主の対応や接客について実技を交えて学ぶ。	ペットハウステン・テン他
トリミング実習	3.【校外】企業内実習(4に該当するものを除く。)	実際に犬を使いグルーミングの基本からカットまでの一連の作業をトリミング実習を通して身につける	ペットハウステン・テン他

3.「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

本校では、専門知識・技術の維持向上のため、研修に関する規程に従い組織的に取り組んでいる。研修内容は校内・校外において授業に必要な専門知識や技術の修得、また自己啓発などの講習に参加など、指導力の向上に努めている。

・本校加盟の各種関連団体研修・委員会において、専門知識・技術の向上を図る。

・(一社)ジャパンケネルクラブ・北海道ブロックトリマー委員会・北海道ブロックハンドラー委員会・日本愛玩動物協会・(一社)インターナショナルキャットクラブ・全国専修学校各種学校連合会・北海道専修学校各種学校連合会、その他動物養成教育に必要と考えられる研修に参加し、情報収集、最新の専門知識・技術の習得に努める。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名: JKCTリミング競技会	連携企業等: 北海道ブロックトリマー委員会
期間: 令和5年7月30日	対象: 教員
内容: 技術向上のため参加	
研修名: JKCTリミング研修会	連携企業等: ジャパンケネルクラブ
期間: 令和5年8月17日	対象: 教員
内容: 試験ルールの変更と犬種別によるカットの解説	

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名: 職業実践専門課程研修会	連携企業等: 北海道私立専修学校各種学校連合会
期間: 令和5年8月1日	対象: 教員
内容: 心動かす価値が未来を変える～持続可能な組織・地域をつくるために～	
研修名: 動物部会研修会	連携企業等: 北海道私立専修学校連合会動物部会
期間: 令和5年8月8日	対象: 教員
内容: 通信制における高校の取り組み	
研修名: 職業実践専門課程研修会	連携企業等: 北海道私立専修学校各種学校連合会
期間: 令和5年12月21日	対象: 教員
内容: 未来の北海道を創る～令和の働き方・学び方を考える	

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名: JKC全国トリミング競技会	連携企業等: ジャパンケネルクラブ
期間: 令和6年4月5日	対象: 教員
内容: トリミング全国大会の参加・見学	
研修名: JKCTリミング競技会	連携企業等: 北海道ブロックトリマー委員会
期間: 令和6年9月29日	対象: 教員
内容: 技術向上のため参加	
研修名: カリスマから学ぶ!『美』へのチャレンジ	連携企業等: T-RAAK・Bored Dog
期間: 令和6年10月23日	対象: 教員
内容: しずく型ブーツカットの極意とバランスのとりに方を学ぶ	
研修名: JKC義務研修会	連携企業等: 北海道ブロックトリマー委員会
期間: 令和6年11月1日	対象: 教員
内容: プードルのスカンジナビアンクリップについて	

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名: 職業実践専門課程研修会	連携企業等: 北海道私立専修学校各種学校連合会
期間: 令和6年7月22日	対象: 教員
内容: 大学における障害学生支援～合理的配慮を中心に	
研修名: 動物部会研修会	連携企業等: 北海道私立専修学校各種学校動物部会
期間: 令和6年8月6日	対象: 教員
内容: 今から備える人生100年時代のお金の話	

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

自己点検・評価をホームページで公開することによって学校の運営や教育内容の改善を図る。また、平成25年度より本校の卒業生・動物業界関係者等で構成される学校関係者評価委員会を設置し、評価の上、結果を公表する。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	学校の理念・目的・育成人材像は定められているか 他
(2) 学校運営	目的等に沿った運営方針が策定されているか 他
(3) 教育活動	教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針などが策定されているか 他
(4) 学修成果	就職率の向上が図られているか 他
(5) 学生支援	進路・就職に関する支援体制は整備されているか 他
(6) 教育環境	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか 他
(7) 学生の受入れ募集	学生募集活動は、適正に行われているか 他
(8) 財務	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか 他
(9) 法令等の遵守	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか 他
(10) 社会貢献・地域貢献	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか 他
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

どのように学びの場を作っていくか、また卒業生に対しても情報を共有することで今後の学校運営や教育内容の向上を図る予定である。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名前	所属	任期	種別
福本直美	DOG SALON paw print	令和6年11月1日～令和8年10月31日(2年)	企業代表
三浦明日香	dog salon SPHR	令和6年11月1日～令和8年10月31日(2年)	企業代表
坂本唯名	卒業生	令和6年11月1日～令和8年10月31日(2年)	卒業生
小島結衣	卒業生	令和6年11月1日～令和8年10月31日(2年)	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。
(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ) ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他())
URL: <https://www.aiken-s.ac.jp/>
公表時期: 令和6年10月31日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

今後、ホームページなどで情報提供を積極的に行い、学校関係者の理解・評価を推進し、適切な職業教育選択をするとともに、社会に対する説明責任、職業実践教育の質の更なる向上を図る予定である。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校名、学校の沿革・歴史、学校の特色 他
(2) 各学科等の教育	定員数・修業年限・在籍数、カリキュラム 他
(3) 教職員	教職員数、教職員(スタッフ)紹介、教職員の組織・活動
(4) キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育への取組状況 他
(5) 様々な教育活動・教育環境	学校行事への取組状況・地域活動
(6) 学生の生活支援	学生の生活支援への取組状況
(7) 学生納付金・修学支援	生徒納付金の取り扱い、活用できる就学支援措置の内容等
(8) 学校の財務	資金収支計算書・貸借対照表
(9) 学校評価	自己評価・学校関係者評価の結果
(10) 国際連携の状況	
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ) ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他())
URL: <https://www.aiken-s.ac.jp/>
公表時期: 令和6年10月31日

授業科目等の概要

#REF!															
分類	授業科目名			授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
								講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
必修	選択必修	自由選択													
1	○		美容学	動物を扱う上での必要な基礎知識、グルーミングが与える動物への効果や健康状態の把握について理解する。	1 2	72	4	○			○		○		
2	○		アニマルヘルスケア	犬や猫についての体躯構成や骨格、健康管理などの知識を深める。また、その知識を活かし、より質の高い技術の習得を目的とする。	1 2	130	8	○	△		○		○		
3	○		コミュニケーション学	挨拶・言葉遣い・身だしなみなどを学び、将来、社会人として人を接するためのコミュニケーションスキルを身につける。	1 2	100	6			○	○		○		○
4	○		トリミング演習	トリミングを行う上での重要な犬の扱いやグルーミング方法、犬種によるカットの違いを学ぶことで、各犬種にあった基本的なトリミング方法や形、ハサミの入れ方などを学習し理解する。	1 2	60	4	○			○		○		
5	○		ハンドリング実習	その犬の持つ最も美しい立ち姿勢や良い歩様を理解し、正しく歩かせる技術を学ぶ。	1	32	2	○			○		○		
6	○		トリミング実習	JKCトリマーライセンス取得を最終目的とし、トリミングを行う上で重要となる犬の保定や扱い方、カット方法、道具などの知識を学び、実習を通して高い技術力を身につける。	1 2	1320	44			○	○		○		○
7	○		伴侶動物学	愛玩動物の基本的行動から適正飼育、しつけ方法などを理解し、社会的ニーズに対応できる実践的応用力を身につける。	1 2	130	8	○			○		○		
合計					7 科目			1844 単位 (76単位時間)							

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件:	試験・実習の成績により総合評価を行う	1 学年の学期区分	2 期
履修方法:	実技・学科の授業を行う	1 学期の授業期間	18 週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地			
愛犬美容看護専門学校		平成22年7月2日		濱本大気		〒 064-0809 (住所) 札幌市中央区南9条西7丁目1-31 (電話) 011-512-7744			
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地			
学校法人工藤学園		平成22年7月2日		理事長 中川佳代子		〒 064-0809 (住所) 札幌市中央区南9条西7丁目1-31 (電話) 011-512-7744			
分野	認定課程名	認定学科名	専任士認定年度	高度専任士認定年度	職業実践専門課程認定年度				
商業実務	商業実務専門課程	動物看護科	平成23(2011)年度	-	平成26(2014)年度				
学科の目的	治療・検査・看護など実際の臨床現場で行われる作業の流れにそった学習を行い、現場で役立つプロフェッショナルを養成する。								
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)	愛玩動物看護師資格・愛玩動物飼養管理士・JKCTリマラーライセンス・IOCキャットグルーマーライセンス・ペットBLS検定・ペット栄養管理士								
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数		講義	演習	実習	実験	実技	
3年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入		2,805 単位時間	780 単位時間	300 単位時間	825 単位時間	0 単位時間	900 単位時間
				単位	単位	単位	単位	単位	単位
生徒総定員	生徒実員(A)	留學生数(生徒実員の内数)(B)		留學生割合(B/A)	中退率				
40人	14人	0人		0%	0%				
就職等の状況	■卒業者数(C)		0人						
	■就職希望者数(D)		0人						
	■就職者数(E)		0人						
	■地元就職者数(F)		0人						
	■就職率(E/D)		0%						
	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)		0%						
	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)		0%						
	■進学者数		0人						
	■その他								
	令和5年度より3年制に変更のため、卒業生・就職者の実績なし(令和6年度より愛玩動物看護科設置のため在校生は2年生のみ) (令和5年度卒業者に関する令和6年5月1日時点の情報)								
■主な就職先、業界等 (令和5年度卒業生) 令和5年度より3年制に変更のため、卒業生・就職者の実績なし									
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: ※有の場合、例えば以下について任意記載			無					
	評価団体:		受審年月:		評価結果を掲載したホームページURL				
当該学科のホームページURL	https://www.aiken-s.ac.jp/								
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(A: 単位時間による算定)								
	総授業時数		2,805 単位時間						
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数		180 単位時間							
うち企業等と連携した演習の授業時数		180 単位時間							
うち必修授業時数		180 単位時間							
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数		180 単位時間							
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数		0 単位時間							
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)		180 単位時間							
	(B: 単位数による算定)								
	総単位数		0 単位						
うち企業等と連携した実験・実習・実技の単位数		0 単位							
うち企業等と連携した演習の単位数		0 単位							
うち必修単位数		0 単位							
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の単位数		0 単位							
うち企業等と連携した必修の演習の単位数		0 単位							
(うち企業等と連携したインターンシップの単位数)		単位(156単位時間) 単位							
教員の属性(専任教員について記入)	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを合算して六年以上となる者		(専修学校設置基準第41条第1項第1号)			2人			
	② 学士の学位を有する者等		(専修学校設置基準第41条第1項第2号)			0人			
	③ 高等学校教諭等経験者		(専修学校設置基準第41条第1項第3号)			0人			
	④ 修士の学位又は専門職学位		(専修学校設置基準第41条第1項第4号)			0人			
	⑤ その他		(専修学校設置基準第41条第1項第5号)			2人			
	計					4人			
上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数					2人				

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針
動物に関わる職業を意識して、命の大切さを実感できる教育プログラムを実施し、生徒一人ひとりの能力を生かした教育編成をする。また、地元獣医師会と連携し、業界関係者の意見を反映しながら、カリキュラム・シラバス・授業内容の改善・実習のブラッシュアップに努める。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け
※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

学校長は教育課程の編成にあたり、第三者の意見を求める教育課程編成委員会を設置し、規則の通りカリキュラムの企画・運営・評価、また授業科目の内容・方法を審議し充実・改善を図る。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和6年11月1日現在

名前	所属	任期	種別
中川佳代子	学校法人工藤学園	令和6年11月1日～令和8年10月31日(2年)	—
樋原均	(株)ペットハウス テン・テン	令和6年11月1日～令和8年10月31日(2年)	③
歌川光	(株)すぎたま	令和6年11月1日～令和8年10月31日(2年)	③
立花徹	北海道小動物獣医師会	令和6年11月1日～令和8年10月31日(2年)	①
原田圭	札幌市小動物獣医師会	令和6年11月1日～令和8年10月31日(2年)	②
濱本大気	愛犬美容看護専門学校	令和6年11月1日～令和8年10月31日(2年)	—

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「—」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期) 2805
年2回(2月)

(開催日時(実績))

第1回 令和6年2月19日 13:00～14:00 第2回 令和6年2月20日 13:00～14:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

動物看護総合実習についての意見交換・協議を行った。企業での研修では理解度とともにお客様に対するコミュニケーションが必要であるため、授業でグループディスカッションを取り入れ、応用性をつけてほしいなどの提案があった。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

校外実習において職場体験・実習教育を行う。内容として現場で必要な接客や技術を学ぶため、インターンシップやビジネス学の科目において1年次後期・動物病院でのインターンシップ実習、2年次前期・動物看護実習、2年次後期、動物病院でのインターンシップ実習を実施する。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

1年次後期・2年次前期に、提携している動物病院に一定期間の現場実習を依頼し、実習終了後、一人ひとりの生徒に対し、5段階評価と総合評価を行ってもらう。2年次前期は動物看護臨床検査実習など更に高度な実習を行う。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	企業連携の方法	科目概要	連携企業等
動物看護総合実習	3.【校外】企業内実習(4に該当するものを除く。)	修得した知識と技術が実際の動物医療現場でどのように活かされるか動物病院で体験・実習する。	北光犬猫病院他

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

本校では、専門知識・技術の維持向上のため、研修に関する規程に従い組織的に取り組んでいる。研修内容は校内・校外において授業に必要な専門知識や技術の修得、また自己啓発などの講習に参加など、指導力の向上に努めている。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	年次大会2023	連携企業等:	北海道小動物獣医師会
期間:	令和5年11月4.5日	対象:	教員
内容	動物医療に関するセミナー		

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	職業実践専門課程研修会	連携企業等:	北海道私立専修学校各種学校連合会
期間:	令和5年8月1日	対象:	教員
内容	心動かす価値が未来を変える～持続可能な組織・地域をつくるために～		

研修名:	動物部会研修会	連携企業等:	北海道私立専修学校各種学校連合会動物部会
期間:	令和5年8月8日	対象:	教員
内容	通信制における高校の取り組み		

研修名:	職業実践専門課程研修会	連携企業等:	北海道私立専修学校各種学校
期間:	令和5年12月21日	対象:	教員
内容	未来の北海道を創る～令和の働き方・学び方を考える		

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	年次大会2024	連携企業等:	北海道小動物獣医師会
期間:	令和6年11月2.3日	対象:	教員
内容	動物医療に関するセミナー		

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	職業実践専門課程研修会	連携企業等:	北海道私立専修学校各種学校連合会
期間:	令和6年7月22日	対象:	教員
内容	大学における障害学生支援～合理的配慮を中心に～		

研修名:	動物部会研修会	連携企業等:	北海道私立専修学校各種学校動物部会
期間:	令和6年8月6日	対象:	教員
内容	今から備える人生100年時代のお金の話		

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

自己点検・評価をホームページで公開することによって学校の運営や教育内容の改善を図る。また、平成25年度より本校の卒業生・動物業界関係者等で構成される学校関係者評価委員会を設置し、評価の上、結果を公表する。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	学校の理念・目的・育成人材像は定められているか 他
(2) 学校運営	目的等に沿った運営方針が策定されているか 他
(3) 教育活動	教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針などが策定されている
(4) 学修成果	就職率の向上が図られているか 他
(5) 学生支援	進路・就職に関する支援体制は整備されているか 他
(6) 教育環境	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されている
(7) 学生の受入れ募集	学生募集活動は、適正に行われているか 他
(8) 財務	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか 他
(9) 法令等の遵守	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか
(10) 社会貢献・地域貢献	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

どのように学びの場を作っていくか、また卒業生に対しても情報を共有することで今後の学校運営や教育内容の向上を図る予定である。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名前	所属	任期	種別
福本直美	DOG SALON paw print	令和6年11月1日～令和8年10月31日(2年)	企業代表
三浦明日香	dog salon SPHR	令和6年11月1日～令和8年10月31日(2年)	企業代表
坂本唯名	卒業生	令和6年11月1日～令和8年10月31日(2年)	卒業生
小島結衣	卒業生	令和6年11月1日～令和8年10月31日(2年)	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ) 広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://www.aiken-s.ac.jp/>

公表時期: 令和6年10月31日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

今後、ホームページなどで情報提供を積極的に行い、学校関係者の理解・評価を推進し、適切な職業教育選択をするとともに、社会に対する説明責任、職業実践教育の質の更なる向上を図る予定である。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校名、学校の沿革・歴史、学校の特色 他
(2) 各学科等の教育	定員数・修業年限・在籍数、カリキュラム 他
(3) 教職員	教職員数、教職員(スタッフ)紹介、教職員の組織・活動
(4) キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育への取組状況 他
(5) 様々な教育活動・教育環境	学校行事への取組状況・地域活動
(6) 学生の生活支援	学生の生活支援への取組状況
(7) 学生納付金・修学支援	生徒納付金の取り扱い、活用できる就学支援措置の内容等
(8) 学校の財務	資金収支計算書・貸借対照表
(9) 学校評価	自己評価・学校関係者評価の結果
(10) 国際連携の状況	
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ) 広報誌等の刊行物・その他())

URL: <https://www.aiken-s.ac.jp/>

公表時期: 令和6年10月31日

授業科目等の概要

	#REF!			授業科目名	授業科目概要	配当 年次・学期	授 業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験・ 実 習・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
1	○			生命倫理・動物福祉	生命倫理の考え方及び動物愛護・動物福祉について学ぶ	1	30	2	○			○			○	
2	○			動物形態機能学	動物の生命維持の仕組みを形態学、機能学、生化学の面から学び、生命体としての動物を細胞、組織、臓器レベルの各階層で理解するとともに、病的変化について学ぶ基盤を確立する。	1 2	120	8	○			○			○	
3	○			動物繁殖学	繁殖に関わる形態と機能を学び、妊娠・分娩と新生子管理、遺伝学の基礎知識を修得する。	1	30	1	○			○				○
4	○			動物行動学	犬や猫の種としての行動様式の特徴を学び、問題行動の原因と対処、予防法を理解する。	1 2	45	3	○	○		○				○
5	○			動物栄養学	5大栄養素やその代謝など基礎栄養学を学ぶとともに、ライフステージや疾患ごとの違い、各種療法食の特色や給餌方法などを理解する。	1 2	60	4	○	○		○				○
6	○			比較動物学	飼養動物や野生動物の概要を理解するとともに、産業動物の歴史や品種、飼養管理法、実験動物の品種や飼養管理法、実験動物との関わり、日本の野生動物の種類と保全、動物園などの展示動物の個体・群管理について学ぶ。	2 3	60	4	○			○				○
7	○			動物看護関連法規	動物看護に関連する基本的な法規について学び、社会における愛玩動物看護師の役割を理解する。	1	15	1		○		○				○
8	○			動物愛護・適正飼養関連法規	動物の愛護および適正飼養に関連する様々な法規について学び、人と動物の共生のあり方等を理解する。	2	15	1	○			○				○
9	○			動物看護学概論	獣医療の歴史や愛玩動物看護師の職業倫理について学び、専門職としての社会的責務を理解し、職業意識を形成する。	1	30	2	○			○			○	
10	○			動物病理学	様々な疾病が組織や臓器にもたらす変化を学び、病態について理解する。	1	30	2	○			○			○	
11	○			動物薬理学	代表的な薬物の体内動態と作用機序、臨床応用及び副作用について学び、動物の疾病の診断や治療にどのように用いられるかを理解する。	2	60	4	○			○			○	

12	○			動物感染症学	微生物や寄生虫の分類、生物学的特性、伝播様式やメカニズムについて学び、検査や診断、衛生管理、予防・感染防御に関わる免疫学の基礎について理解する。	1 2	90	6	○			○	○		
13	○			公衆衛生学	環境及び食品衛生、疫学、人獣共通感染症について学び、人の健康の維持・増進や疾病予防への応用について理解する。	1 2	60	4	○			○	○		
14	○			動物内科 看護学	内科診療の補助に必要な基礎知識を学び、身体検査、採血、投薬、輸液、輸血、画像診断に必要な検査、所見の記録等について理解する。	1 2	90	6	○			○	○		○
15	○			動物外科 看護学	外科診療の補助に必要な基礎知識を学び、術前準備から術中補助、術後管理までの流れを系統的に理解し安全な手術の実施に必要な知識を修得する。	2 3	60	4				○	○		○
16	○			動物臨床 看護学総論	動物看護過程の一連のプロセスを学び、事例ごとの個別性に重きを置いた動物看護の基本的な考え方を修得する。	1	30	2				○	○		○
17	○			動物臨床 看護学各論	様々な疾患の病態生理を理解し、それによって引き起こされる症状や必要な処置、治療に関する基本的な知識を学ぶ。各々の機能障害をもつ動物に対してどのような看護を提供すべきか、評価と介入の方法について理解する。	2 3	120	8				○	○		○
18	○			動物臨床 検査学	様々な臨床検査の原理や方法、意義について学び、検体や測定機器の正しい扱い方について理解する。	1 2	30	2				○	○		○
19	○			動物医療 コミュニケーション	事前問診、入院動物の容態説明、院内における他のスタッフとのコミュニケーションの基礎について学ぶ。	1	30	2				○	○		○
20	○			ビジネス学	社会人としての必要な知識・ビジネスマナー・コミュニケーションスキルを学ぶ。	2	30	2				○	○		○
21	○			愛玩動物学	2805	2 3	60	4				○	○		○
22	○			人と動物の 関係学	動物が人間社会で果たしている役割やその背景・歴史について学び、人と動物の関係を心理学的および社会学的側面から、その実態、課題等を含めて理解する。	2	30	2	○				○		○
23	○			適正飼養 指導論	愛玩動物の効用や飼養目的等を理解した上で、適正飼養の推進活動、災害時の機器管理のあり方、動物愛護管理行政の仕組みについて理解する。	3	60	4	○				○		○
24	○			動物生活 環境学	愛玩動物として飼育されている犬や猫をはじめ、ウサギ、ハムスター、小鳥や両生類などの生態や飼育方法を学ぶ。、動物福祉をふまえた飼育管理方法を理解することを目標とする。	3	30	2	○				○		○
25	○			ペット関連 産業概論	ペット関連産業に従事する者としての職業倫理・行動倫理を理解するとともに、ペット飼養のニーズや形態、ペット関連産業を構成する業種の概要、動物取扱業における動物取扱責任者としての実践的知識や手法を学ぶ。	3	30	2	○				○		○
26	○			動物形態 機能学実習	動物の身体の形態と機能を骨格標本や臓器模型、主要臓器の組織像などを通じて学ぶ。	2 3	30	2				○	○		○

27	○		動物内科看護学実習	内科診療に必要な手技など、動物内科看護学で学んだ知識の実践力を習得する。	1 2	120	8			○	○	○					
28	○		動物臨床検査学実習	検体に必要な手技や機器の扱い方など、動物臨床検査学で学んだ知識の実践力を習得する。	1 2 3	90	6			○	○	○					
29	○		動物外科看護学実習	手術準備や術中・術後管理、麻酔監視、手術の補助、救急救命など動物外科看護学で学んだ知識の実践力を修得する。	1 2 3	90	6			○	○	○	○				
30	○		動物臨床看護学実習	動物看護過程や疾患別看護など、動物臨床看護学で学んだ知識の実践力を修得する。	2 3	60	4			○	○	○					
31	○		動物愛護・適正飼養実習	動物の飼養管理に関する基本的な取扱いや飼い主とのコミュニケーションなど、愛護・適正飼養学に関連した科目で学んだ知識の実践力を習得する。	1 2	60	4			○	○	○					
32	○		動物看護総合実習	実際の動物診療施設で診療業務に参加し、これまでに学んだ学習内容を統合する。診療施設の概要や機能、獣医師との連携、飼い主とのコミュニケーション、愛玩動物看護師としての役割や責任について理解し、実務能力を修得する。	1 2	180	12			○	○	○	○				
33	○		美容学概論	トリミングをする上で重要な犬の扱い方やグルーミングの方法、犬種によるカットの違いを学ぶことで、各犬種にあった基本的なトリミング方法や形、ハサミの入れ方などを学習し理解する。	1 2	30	2			○	○	○					
34	○		動物看護飼育美容実習	バイタルサインを実施しながら健康な動物を理解する。負担のないトリミングを実施する。実習を通して様々な保定術を身に付ける。	1 2 3	900	30			○		○					
合計						34	科目	2805 単位 (156単位時間)									

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件：試験・実習の成績により総合評価を行う		1 学年の学期区分	2 期
履修方法：実技・学科の授業を行う		1 学期の授業期間	18 週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。